若狭湾海の自然学校～矢代湾で生きる～　同窓会

１．参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
―	―	16 名	16 名（参加率 100%）

２．事業内容（概要）

◆ねらい

○　海の自然学校の参加者が再び一堂に会し、共に活動することを通して、当時の学び ※を再確認する。

○　海の自然学校での学びを仲間と伝え合う活動を通して、日常生活に向けての意欲を高めさせる。

※ 自然の素晴らしさを味わう・状況を受け入れる力を高める・自己を理解する力を高める

◆期日・期間

平成 30 年 12 月 22 日（土）～12 月 24 日（日）　２泊３日

◆協力団体

安藤スポーツ･食文化振興財団

2018 年度自然体験活動支援事業「第 17 回トム･ソーヤースクール企画コンテスト」にて

◆参加者分析

８月に行われた海の自然学校参加者（16 名）が全員参加することとなった。毎年、都合が悪くて参加できない子が数名いたが、今年度は参加率が 100%となった。その要因として、自然学校の募集をする段階で、「事前説明会（７月)」「自然学校（８月)」「同窓会（12 月)」この３つのすべてに参加できる方という広報をしたことや､冬季休業中であろう 12 月後半の３連休に日程を変更したことで参加しやすくなったからだと考える。

また、自然学校の際には、子供たちに「同窓会では何がしたいか？」などと問いかけ、12 月にまた２泊３日で仲間と過ごせることや、自分たちのやりたいことができるかもしれないという期待をもたせたことも、参加率を上げた要因の一つと考えられる。

◆企画のポイント　（日程・特色など）

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12月22日（土）								受付（トビーH） はじまりのつどい（トビーH）	室内スポーツ（トビーH）→	テント設営	野外炊事（夕日） （トビーHか夕日）	【カレーライス】→	入浴	たき火（夕日）	ふりかえりトーク準備 思い出のスライド（トビーH）	就寝準備 テント泊（トビーHか夕日）
12月23日（日）	起床 朝のつどい	散策（大浜） 朝食【食堂】	もちつき（夕日）	→		昼食（夕日） 【豚汁・もち】	自由時間	散策（大浜・岩の沢など）	野外炊事（夕日）	【ダッチオーブン料理】	入浴	→	クリスマスパーティー（夕日）	→	ふりかえりトーク（トビーH）	就寝準備 テント泊（トビーHか夕日）
12月24日（月）	起床 朝のつどい	朝食【食堂】 清掃	テント片付け	散策（大浜・岩の沢など）	昼食【食堂】	おわりのつどい 解散										

自然学校の参加者が再び活動をともにし、夏の自然学校で学んだことを活かした活動をという趣旨から、今年度の同窓会は自然学校参加者のみでの開催にした。

◆運営のポイント

① 自然の家までの道のりを、できる限り自分の力で来ることとし、緊張感を高め、仲間との再会をより一層楽しみにするように仕掛ける。

② テント設営や野外炊事など、夏と同じ活動をしたり、スライドショーを見たりしながら当時の気持ちを想起させる。

③ 冬らしい活動として「もちつき」「ダッチオーブンを使った料理」を行う。

④ ふりかえりトークでは、自らの気持ちを語る時間を十分に確保する。参加できなかった子からは、事前に「仲間へのメッセージ」を書いてもらい、参加者に披露する。(結果として欠席者はゼロだったので、仲間へのメッセージは書く者はいなかった)

⑤ テントはトビーHに設営する。天候・気温を見て、できそうなら夕日に設営し、一晩中たき火をしながら過ごす。

３．アンケート結果

（１）アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	100%	0%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	100%	0%	0%	0%
事業全体の運営はどうでしたか	94%	6%	0%	0%

４満足　３やや満足　２やや不満　１不満

（２）参加者の声

○夏に会った友達にまた会えて楽しかった。
○すごく楽しかった。また同じようなことをしてほしい。
○準備のときはとてもワクワクしていた。
○クリスマスパーティーが楽しかった。
○すごろくトークが一番楽しかった。もっとしたかった。
○いやなときがない。とても楽しかった。
○自分一人で行くのは不安だったけど、みんなと会えた瞬間ホッとした。
○いろんなことをして楽しかった。
○電車の乗りかえがとても大変でした。
○今までで一番楽しいキャンプになりました。
○いろいろな体験ができて楽しかった。
○みんなのことをよく分かった。
※「同窓会をどのくらいの期間で実施してほしいですか？」との質問に対し、もっと長く（1週間以上）が 81%、もう少し長く（３泊４日）が 19%という結果だった。とても居心地の良い３日間だったことが理解できた。

４．成果と課題

（１）成果

○家から若狭湾までの移動も、「できる範囲で公共交通機関を」という提案を、７月の事前説明会から伝えていたため、参加者全員が公共交通機関で若狭湾を目指すことができた。保護者の方にも「かわいい子には旅をさせよ」という趣旨を理解していただけたと感じている。

○家からの移動で不安な気持ちを抱えながら若狭湾に近づき、途中の駅で再会するなど、徐々に仲間たちと出会うことで、子供たちの気持ちが高まっていったようである。三方駅にバスで迎えに行ったボランティアによると、バスの中では子供たちはとてもいい雰囲気で過ごしていたようである。

○例年２月に１泊２日で行っていた同窓会を、12 月に２泊３日で行うこととした。おそらく２月よりも、冬季休業中の 12 月の方が子供たちにとって参加しやすかったようである。また、１日長くしたことで活動内容が（活動の選択肢が）大きく広がったため、大変効果的だった。
○子供たちが夏を思い出せるよう、当時と同じものを行動食として配付したり、トビーH内でテント泊をしたりした。また、スライドショーでは、講師としてお世話になった大瀬氏によるビデオレターを流すなどの工夫をした。
○夏の自然学校の最後に子供たちに聞いた「同窓会では何がしたいか？」という質問に対する回答を参考に２泊３日のプログラムを立案した。「冬にしかできない活動を」という多くの意見から、クリスマスや年末年始をイメージしたダッチオーブン料理やもちつきなど、みんなで料理を作る活動を軸にした。実際に子供たちの動きを見ていると、じっくり食事の準備をする子、暖を取るために火をたき続ける子、みんなで食べるための魚を釣りにいく子など、夏の自然学校での無人浜での過ごし方と似ていた。「自然学校冬バージョン」としてとらえても良いと感じた。
○子供たちの近況を報告し合う取り組みとして「すごろくトーク」を行った。みんなでお題を決め、全員が自分の意見を語る経験を通して、互いのことを理解するよい機会となった。参加者のみならずボランティアからもこの手法は好評であった。

（２）課題
●「２泊３日でゆとりがある」と考え多くの内容を詰め込んでしまい、結果としてややタイトだったと感じている。日の暮れも早く、生活拠点とした夕日の広場までの移動距離や、入浴の時間など、子供目線で考えた場合改善の余地がある。事業後のスタッフ打合せでは、クリスマスパーティーは明るいうち（昼間）に行うとよいことや、入浴後は極力外へでないことなど、今後の計画立案の際に参考となるポイントを整理することができた。
●公共交通機関の事を考えると、最終日がタイトになってしまい、最後が慌ただしくなってしまった。食事を食堂食ではなく弁当にすることや、もう１本遅い電車での帰宅にするなどの工夫をし、今後は最終日のふりかえりの時間を確保したい。

５．活動の様子